

授業科目名	文学(2000012)		
時間割名	文学(14101)		
時間割担当	阿尾あすか		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	月・4		

授業の目標・概要

日本の古典文学には、その時代の価値観や当時の人間の物の考え方などが反映されている。文学に表された人間の心は現代と共通する点が多いが、一方で価値観や思想は現代とは異なるものが多い。時代によって異なる価値観や物の考え方を知ることは、視野を広げ、多面的な物の考え方を身に付けることにつながるだろう。本講義では、中学高等学校の教科書でも取り扱われている有名な古典作品を取り上げ、そこに表された人の心とその時代の価値観を読み取ることを目標とする。

学習の到達目標

- 1) 日本の古典文学、特に上代から中世にかけての文学の変遷と、各時代を代表する文学の特色について理解している。
- 2) 日本の古典文学についての基礎知識を修得している。
- 3) 文学を研究する上での態度、「読んだ内容から疑問点を見つけ考える」ことが身に付いている。

授業方法・形式

講義形式である。毎時間、取り上げる作品と関連したワークに取り組む。これらのワークで、自分の考えをまとめる、疑問点を調べることを習慣づける。また、毎回講義終了時に気づいたことや考えたことを振り返りカードに記入する。記入した内容は次の講義で積極的に紹介し、意見共有を行う。また、必要知識が身に付いているかを確かめるため、隔週で小テストを行う。

授業計画

- 第1回 昔の日本人の物の考え方を知る
- 第2回 古代人の物の考え方 歴史について 『古事記』と『日本書紀』
- 第3回 古代人の物の考え方 神話について 『古事記』
- 第4回 古代人の物の考え方 天皇について 『古事記』
- 第5回 古代人の心 『万葉集』
- 第6回 古代人の心 『万葉集』
- 第7回 古代人の心 『万葉集』
- 第8回 古代から中古へ ひらがなの獲得
- 第9回 心と文字 『竹取物語』
- 第10回 平安時代の価値観・恋愛観 『伊勢物語』
- 第11回 王朝物語に表された心 『源氏物語』
- 第12回 王朝物語に表された心 『源氏物語』
- 第13回 王朝文学から見える人間の生き方 『枕草子』
- 第14回 乱世の思想 『平家物語』
- 第15回 戦乱に生きる人間の新しい価値観 『平家物語』

成績評価の基準

定期試験60%、振り返り・小レポート等20%、平常点(発表・ワーク・小テスト・取り組み方等)20%の割合で、総合的に評価を行う。

準備学習・復習及び授

- 1) 開講前に日本の文学史や歴史について、高校の教科書・便覧などで復習すること。
- 2) インターネットでの検索でかまわないので、講義で取り上げる文学作品について調べて予習しておくこと。作品の成立した時代、作者、簡単な内容は覚えておくこと。
- 3) 現代語訳でかまわないので、講義で取り扱った作品を読み、詳しい内容について知識を得ること。
- 4) 講義で取り扱った内容で自分の興味関心が特にあるものについてさらに調べ、小レポートを作成する課題を課すことがある。

履修上のアドバイス及

使われている言葉や文法の難しさから、古典文学は敬遠されがちですが、まず「物語」として読むようにしましょう。そうすれば古典文学に対する捉え方が変わるはず。まずは、現代語訳や映画でもかまわないので、講義で取り上げた作品の内容を詳しく知ることから始めましょう。

教材・教科書

授業中に指示する。

参考書

授業中に指示する。